



げんでん芸術新人賞

ふくい伝統行事「アイバサマの祭り」

げんでんふるさと大賞写真コンテスト

施設のご紹介「福井県立恐竜博物館」

ご挨拶

令和5年10月1日に理事会で選任され、当財団の理事長に就任いたしました。

当財団は、平成9年に設立し、今年で27年目を迎えました。又、平成24年に公益財団法人としての認可をいただいてから11年が経ち、おかげさまで、微力ながらも本県の文化の振興とふれあいとゆとりのある地域づくりをお手伝いさせていただく財団として、定着することができました。

当財団の広報誌「げんでんふれあい福井」につきましては、発行を重ね、今回で55号を発行することができました。地域の皆様との懸け橋となる本誌を通して、当財団の活動をお知らせするとともに、県内の文化活動等を紹介し、皆様との絆を更に深めてまいりたいと考えています。

今後とも、地域に根差した財団運営を行いつつ、県、市町、文化団体等と連携して、地域文化のさらなる振興に取り組んでまいります。

引き続き、ご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



公益財団法人 げんでんふれあい福井財団

理事長 坂井 毅志

表紙の説明『アイバサマの祭り』(坂井市)

広大な穀倉平野の越前地方には、稲作の守護神として「アイノカミサン」「アイバサマ」「アイノキサン」と呼ばれる田の神が、氏神の境内や田の畔にひっそりと小祠の中に祀られています。祠の中には、いわゆる稲荷の翁や、狐の背に乗り右手に鎌、左手に稲束を持った神像や仏像が安置され、「アイノコト(饗の事)」と呼ばれる収穫祭には海山の神饌やお神酒が供えられ、村中こぞって豊作を祝います。坂井市坂井町島の春日神社の境内にある「合葉神社」では、毎年1月4日の昼前に「アイバサマの祭り」が行われ、一升握りのお握りと漬物の形に切った大根が男女二神に供えられ、鳥が啄むと豊作と言われています。神主による神事後、ドンドに点火。新年の安全祈願と、豊作を祈る田の神祭りが今年も無事行われました。



(写真撮影：吉田俊雄氏)

目次 55

- ご挨拶…………… 2
- げんでん芸術新人賞…………… 3
- ふくい伝統行事「アイバサマの祭り」… 4～5
- げんでんふるさと大賞写真コンテスト… 6～7
- 施設のご紹介「福井県立恐竜博物館」… 8
- 財団助成事業・協賛事業のご紹介…………… 9～10
- 情報ファイル…………… 11

財団シンボルマーク



公益財団法人「げんでんふれあい福井財団」は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民の皆様との絆を大切にしたいと広報誌を目指します。

令和5年度 げんでん芸術新人賞

将来を大いに期待できる芸術活動を行っている県内在住の新人芸術家に「げんでん芸術新人賞」を贈呈しました。

邦楽



後藤 礼奈さん
(鯖江市)

母、祖母が箏・三絃の教授者であるという家庭に育つ。名古屋音楽大学邦楽コースで古典や地歌を専門的に学び、卒業後は福井県内を中心に多くの邦楽の演奏会等に出演し、研鑽を重ねている。また、「箏・三絃教室」を開設し

て、小学生から50代まで幅広い年齢の生徒を指導し、邦楽伝承に尽力している。邦楽（箏曲）コンクールでの受賞も多数。
アニメソングや自身編曲のソロなどを演奏し、若い世代にも箏の魅力発信を行っている。福井県出身の和楽器奏者で結成されたグループ「誉し」に加入し、福井の名所をイメージしたオリジナル曲を作曲し演奏するなど、地域ゆかりの音楽にも挑戦している。



重要文化財 旧木下家（勝山市）でのひなまつり演奏



「かなであい～巡りついた場所で～」の演奏

漆工芸



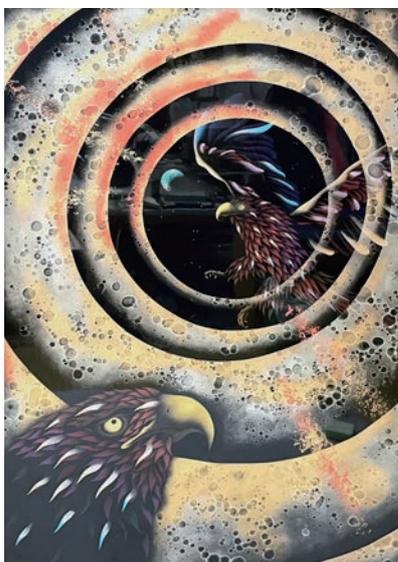
富田 忠志さん
(鯖江市)

物心ついた頃から父が日本現代工芸美術展や日展に出品しており、父の紹介で輪島の文化功労者、日本芸術院会員の故三谷吾一氏の元で沈金師としての修行を始める。ものづくりに向かう心構えや作品に対する考え方、技術を学び帰郷。帰郷後は父から異

なる技法を学ぶ。平成12年に第39回日本現代工芸美術展で初入選以降毎年出品。漆作家として様々な公募展に出品し、受賞を重ねている。
越前漆器協同組合青年部長として、地元の産地活性化にも尽力している。



令和3年第59回日本現代工芸美術展
現代工芸本会員賞授賞作品「眦」



令和5年第10回日展入選作品
「遙か彼方」

「アイバサマの祭り」

坂井市

越前地方の田の神祭り

福井県内有数の穀倉地帯として知られる越前地方、すなわち嶺北一帯には、稲作農業の職能神として、細々とながら各地に田の神が祀られています。「神祇不拝」「鬼神を祀ることを得ざれ」とされ、俗信（民俗信仰）を強力に排斥してきた、弥陀一仏を本願とする真宗王国と呼ばれる浄土真宗の教義に反してまでも、稲作の豊穰を願う農民の田の神信仰は古来根強く受け継がれてきました。

もっぱら、田の神祭りとしては奥能登のアエノコトがとに知られていま



越前市余田「アイノコト」



越前市余田「田の神」

すが、当県においては「アイノコト」と呼ばれ、田の神として「アイノカミサン」「アイノキサン」「アイバサマ」などと通称されてきました。漢字で記せば、「饗の神」「饗庭様」が正当な標記ですが、庶民の常として、「愛の神」「相の神」「合の神」などの当て字が用いられています。

アイノコトとアイノキ

本来、アイノコトは「饗之事」が正しく、この言葉は16世紀初頭の剣神社文書や朝倉孝景判物に記載されています。神様に新嘗の神饌をささげて饗応することを意味する奥ゆかしい言葉です。田の神祭りは、そのお下がりに関係者一同が直会で豊作を祝って神人共食することにほかなりません。



越前市白崎の「相の木さん」

小祠の傍には、神が天空から降臨する依り代となる、樺や杉などの大きな神木があり、「アイノキ」「相の木」などと呼ばれております。祭祀者の旧家

が相木姓を名乗っていることも見られます。その分流は長野県南佐久郡の北相木村に移住し、戦国時代には相木城主ともなりました。

合葉神社のアイバサマの祭り

広大な坂井平野には、稲作地帯の常として、各地域に田の神が、境内神、末社として小祠の中に手厚く祀られています。『福井県神社誌』には、曾保道神社（坂井市三国町西谷）、相葉神社（あわら市田中）、曾保津神社（同・井江）、稲葉神社（坂井市坂井町大味）、合葉神社（同・正善）、相葉神社（同・宮前）、合葉神社（同・西今市）、田上神社（同・木部新保）、合葉神社（同・島）などが掲載され、いずれも祭神が「曾保登神」とされていますが、この神はいわゆる案山子で、まさしく「山田の中の一本足の案山子」、すなわち田の神にほかなりません。分霊を勧請してきた経緯が伺われる、伏見稲荷大社の祭神の稲荷の翁を象った神像や、阿弥陀、地藏、観音、毘沙門天などが祠の中に鎮座し、まさしく神仏習合の歴史の一場面が見られます。

坂井市坂井町島は、坂井平野の中ほどに位置し、いかにも稲作を主な生業とする県道5号線沿いの純朴な農村で、現在、世帯数20、人口54人の集落。当の合葉神社は氏神の春日神社の境内社

として祀られ、青色凝灰石岩製の入母屋造の小祠の中に、向かって左側に箕を持った男神、右側には枡を持った女神が浮き彫りにされています。

『木部村誌』によればアイバサマは百姓の神、豊作の神とされ、かつては毎年節分に祭りが行われてきましたが、現在は1月4日の午前中に変更。祭りは輪番制で行われ、当番の家で当日の朝早く子どもに各家から3合ないし5合の新米を集めさせ、男がご飯を炊き、お初で1つ一升握りの大きなおにぎりを2つ作ります。大根を漬物の形に切り、新藁でお椀を作り、竹か葎（葎）の箸を刺したお握りと大根を乗せて、宮司による祝詞奏上、玉ぐし奉奠などの一連の神事が行われます。

神事には区長、氏子総代、農家組合長、祭り当番が列席。区民も老若男女が参加し、神事後、境内に積み上げられた注連縄や正月飾り、古札などに点火され、どんど焼きが行われて終了、めでたく散会となります。

豊作の年は鳥やけだものがお供えを早く見つけて啄むとされ、近在の住民からも「島のあいの神は今年はどうじゃ」とその結果を尋ねられたと言われていました。この伝承は、彦根市の多賀大社の先食神事をはじめ、若狭地方に多く見られる「鳥勧請」の習俗に相違ないでしょう。越前地方の片隅に、古代に通じる奥ゆかしい民俗行事が細々とではあれ、今なお継承されていることは、大変有意義なことではあります。

（日本地名研究所

所長 金田久璋）



春日神社の境内社
アイバサマの祠



アイバサマの祭りの神事



どんど焼



一升握りと大根



区民に直会を配る様子



どんど焼

(写真撮影：4頁 金田久璋氏、5頁 吉田俊雄氏)

テーマ

四季折々「シン・ふくい」



ふるさと
大賞

前田 繁雄さん
(福井市)

2023
げんでんふるさと大賞
写真コンテスト

伸びる県都の顔

夕刻迫るビル街に恐竜がタイムスリップし、その広場に集う学生や行き交う市民たち……そんな光景を想起させる本作は、コンピュータグラフィックスで合成されたアートではなく、写真。カメラマンの視点、撮影の時間帯、画の切り取り方等が絶妙！そして何よりカメラマンの撮影時の熱量が、福井駅前の恐竜広場を“幻想的な異空間”へと変えた！！

(講評：審査委員 西村 直樹氏)

ふるさと賞



吉田 隆一さん (福井市)

一般の部 「グローバルな出会い」



斎藤 俊治さん (坂井市)

一般の部 「がけっぶち初踊り」



廣部 美咲さん (丹生高校)

学生の部 「田舎少女」



受賞者の皆様

「ふるさと福井の自然・歴史・文化」等の地域資源を題材にした
写真コンテストを行いました。
【応募総数】105名290点

優秀賞



一般の部「春の目覚め」

前田 由加里さん (福井市)



一般の部「雄島祭りの舟みこし」

増田 松則さん (福井市)



学生の部「魂の叫び」

大塚 菜南子さん (丹生高校)

総評

審査委員長 写真家 水谷内 健次 氏

今年も「ふるさと大賞」の名のもと、これぞ私のふるさと、という作品が数多く集まりました。応募点数は290点にのびります。移りゆく街、変わらぬ自然や伝統行事、そこに暮らす人々の営みなどが色鮮やかに映し出されました。大賞の「伸びる京都の顔」は、他のどこにもない街を巧みな広角でとらえた独特な遠近感のある作品で、まさに福井のホットな今を伝える作品です。ふるさと賞の「がけっぴち初踊り」は、県民もあまり知らない東尋坊を紹介してくれており、自然と人間の一体感を感じます。「グローバルな出会い」は、三國サンセットビーチの夕焼けと女性がまとった朱色の衣裳が呼応し合う作品です。「田舎少女」は、黄金色に染まる稲穂と少女の生き生きとした時を感じさせてくれます。今後、ふるさとに目を向けた、心あたたまる作品が生まれることを期待します。



一般の部「輝き」

渡辺 修一さん (鯖江市)



学生の部「乙女の秘密」

齋藤 飛鳥さん (丹生高校)

協賛社賞

(株)フジカラー北陸賞



「曙色に染まる」

多田 幸男さん (福井市)

福井県カメラ商組合賞



「進撃の勇者」

嶋 由有美さん (福井市)

入選作品一覧 (敬称略)

作品名	受賞者
時代を継ぐ	伊部 寛二 (鯖江市)
祈り	加藤 智美 (越前市)
桜吹雪	加藤美智子 (越前市)
全集中	橋本 恵悟 (敦賀市)
晴好雨奇	玉村 心優 (越前市)
ウエルカム	郡谷 正喜 (福井市)
新緑の湿原	原田 壽 (敦賀市)
春風	江守 伸二 (福井市)
森の目覚め「森(シン)・ふくい」	江守智加枝 (福井市)
ゲット	高山 広志 (越前市)
海岸の獣木(主)	佐久間 博 (小浜市)
白鳥飛来	佐々木 徹 (福井市)
鎮守の社	坂本 英継 (大野市)
忍耐(神)	三上恵美子 (福井市)
春風	三田村久美子 (鯖江市)
豊作祈願	室田 昇 (鯖江市)
夏深し	清水 元博 (鯖江市)
不死鳥の願い	竹次 一雄 (福井市)
まなざし	竹次 春美 (福井市)
夏休み	塚田 玲子 (鯖江市)
4年ぶりのにぎわい	藤村 留美 (敦賀市)
未来に繋ぐ	梅村 栄作 (大野市)
新築ビルを眺める	尾川 久雄 (福井市)
ほくの顔みて!	片岡 修一 (越前市)
幻想 列車	和田 祥暢 (美浜町)
未来に向かって!	小島 優衣 (鯖江高校)
ひなたぼっこ	青山 美咲 (丹生高校)
明日へ、新たに向かう	八木こづめ (金津高校)
春を見つめる	木村 春奈 (丹生高校)
似たもの同士	柳生 陽音 (丹生高校)

富士フィルムイメージングシステムズ(株)賞



「チャレンジャー VS ハンター真剣勝負」

山本 健一さん (越前町)

福井県立恐竜博物館



空撮全景

福井県立恐竜博物館は、平成12年7月の開館以来初の大規模改修を経て、よりリアルな恐竜の世界を体験できる博物館として令和5年7月14日（金）にリニューアル・オープンしました。これまでの常設展示室は、新たに、映画ジュラシックパークシリーズに登場して人気のスピノサウルスの仲間であるスコミムスなどを展示に加え、恐竜の全身骨格標本を以前の44体から50体が増やしました。又、恐竜以外にも同じく映画に登場して人気のモササウルスの仲間で、全長13メートルのティラノサウルスも中生代の海を描いた海中風景画を背景にして展示しました。

雑誌等に写真が掲載されることが多



1階「恐竜の世界」

い、当館の「シンボル」とも言えるティラノサウルスロボットも表情を変えました。吠えていないときには歯を見せずにピタリと口を閉じている最新復元の顔となり、印象も大きく変わって生き物らしい豊かな表情となりました。さらに動きの演出も見直され、これまでの天に向かって吠えるダイナミックな動きに加えて、近づく来館者を獲物としてロックオンするかのようにより視線を合わせる、動きを追加。近い距離で恐竜のより生き生きとした姿を感じることが出来ます。

さらに、常設展示室には世界一保存



ブラキロフォサウルスの実物ミイラ化石

状態のよい化石としてギネスにも登録されている「レオナルド」というニッケネームが付けられているブラキロフォサウルスの実物ミイラ化石を、10年の期間限定でアメリカの博物館から借用して展示しました。他の標本とは違って、化石として残りやすい骨や歯などのほかに、皮膚や筋肉の痕跡を観察することが出来ます。

増築した新館の通称「小タマゴ」のホールには、福井で見つかった新種の恐竜5種と鳥類をあしらった1階から3階までにもおよび「恐竜の塔」があります。刻々と変わるイルミネーション

ンによる光の装飾は、季節に合わせてベース色自体が変わります。

特別展示室は、これまでよりも天井が高く、特別展開催時には、より大きな標本をダイナミックに展示することが可能となりました。その天井高を生かして、特別展開催期間以外は、高さ9メートル幅16メートルの大型スクリーン3面を「コ」の字形に配置した「3面ダイノシアター」に、福井の恐竜時代を実物大で投影しています。

当館が運営している野外恐竜博物館は、福井の恐竜発掘現場の石を使った発掘体験ができる施設として人気ですが、冬季は積雪のために営業ができません。そこで、オールシーズン体験可能な博物館として、化石のクリーニングのほか、ティラノサウルスの頭骨の復元など、化石発掘後のプロセスに重点をおいた体験プログラムも新たに導入しました。

当館は、開館以来、国内の恐竜化石の研究・情報発信の拠点としての役割を果たすとともに、研究成果に基づく学術的に裏付けされた展示に力を入れてきました。生まれ変わった恐竜博物館では、真の恐竜の世界をこれまでよりもさらに近い距離で感じることが出来ます。

（福井県立恐竜博物館

事業教育課長 松下 准城）

財団助成事業・協賛事業のご紹介

FUKUI わくわく文化フェス

北陸新幹線福井県内開業半年前プレイベント in Fukui 「FUKUI わくわく文化フェス」が、令和5年9月17日～18日に福井市のハピリンホール及びハピテラスで開催されました。この催しは、令和6年3月の北陸新幹線の県内開業に向けた機運醸成を目的に、福井県文化協議会の主催で行われたものです。オープニングイベントでは、福井県吹奏楽連盟、福井県合唱連盟及び「MAMAモダンダンス研究会 Jr.チーム」の約100人でウエルカムソング・ダンス『君と描く未来へ』と「MOMO」君が最高に輝くように』が披露されました。2日間にわたって様々な芸能や作品が披露され、2日目のフィナーレでは、福井県吹奏楽連盟、福井県日本舞踏連盟及び飛び入り参加の県民により、福井県の民謡「イッチョライ節」が演奏され、開業の機運を盛り上げました。



さばえ近松文学賞 — 恋話 (KOIBANA) RETURNS —

さばえ近松文学賞の表彰式が、令和5年9月30日(土)に鯖江市立待公民館で行われました。江戸時代の人形浄瑠璃作家の近松門左衛門が鯖江市で生まれ育ったことから、鯖江市では、「近松の里づくり」として史跡や観光拠点の整備を行っています。

さばえ近松文学賞は、その一環として、近松の生誕360年を記念して平成25年に創設された文学賞で、今年度、生誕370年を記念して5年ぶりに復活しました。全国から応募のあった263点から、映画「おしよりん」の原作者の藤岡陽子特別審査員を始め、5名の審査員による審査の結果、近松賞には、南理維さん(東京都)の「予感」が選ばれました。表彰式では、主催者である近松の里づくり事業推進会議の牧野百男会長から表彰状が授与されました。



ゴールデンコンサート2023

男声合唱団ゴールデンエイジふくいゴールデンコンサート2023が、令和5年10月8日(日)に福井市のハーモニーホールふくいで開催されました。このコンサートは、全国的にも珍しい60歳以上の男性のみで平成18年に結成された平均年齢76歳の男声合唱団ゴールデンエイジふくいが開催したものです。4年ぶりにマスクなしで開催された今回のコンサートでは、オープニングの「斎太郎節」、川の流れのように」の後に、ゲスト出演のチエロ演奏を挟んで、「北の国から」、「赤とんぼ」と続き、最後の「二度とない人生だから」まで計12曲が歌い上げられました。変化に富んだ、力強く、伸びのある男声合唱に、来場した約1200人の聴衆はじっと聴き入っていました。



財団助成事業・協賛事業のご紹介

福井国際フェスティバル 2023

福井国際フェスティバル2023が、令和5年10月22日(日)に福井県国際交流会館で開催されました。今年のフェスティバルでは、在住外国人の方々による様々な国や地域の文化紹介、各国の料理が楽しめる屋台村のほか、サンバやベリーダンスなどのステージ発表、トウクトウクの試乗体験などが行われました。又、着物の試着や陶芸体験、和紙を使ったクラフト体験など日本文化が体験できるコーナーも設けられました。

そのほか、子育ての喜びや悩み事を話し合う座談会「多文化子育て交流ひろば」も開催され、県内外から訪れた約2000名の来場者は、世界各国の文化を体感するとともに、国際理解を深めていました。



第20回トレモロコンサート

越前おおのめいりんオペラ塾第20回トレモロコンサート「1つのオペラと1つのオペレッタ」が、令和5年10月29日(日)に大野市学びの里めいりんで開催されました。このコンサートは、大野市在住の方を中心に平成16年に結成し、音楽だけではなく地域にあった視覚的エンターテインメントを目指して活動を続けているトレモロが、今年度、記念すべき20周年を迎えたことから、集大成のオペラとオペレッタを披露しようと開催したものです。

第一部のオペラ「ヘンゼルとグレーテル」では、ワークショップで舞台セットのお菓子の家を市民と一緒に作り、第二部のオペレッタ「メリーウイドウ」では、動画映像や照明を駆使して、歌と踊りを繰り広げました。会場の観客たちは、舞台上で繰り広げられる歌と演技に、大きな拍手を送りながら楽しいひと時を過ごしていました。



若狭合唱協会 第30回合唱祭

若狭合唱協会第30回合唱祭が、令和5年11月19日(日)に高浜町文化会館で開催されました。この合唱祭は、合唱技術の向上と互いの交流を図ることを目指して若狭合唱協会が主催し、敦賀市から高浜町までの10合唱団が持ち回りで開催しているものです。今年度の合唱祭では、グラッセ高浜をスタートに、各合唱団が、混声、男声、女声、それぞれハーモニーを響かせました。又、30回を記念してゲストに迎えたソプラノ歌手の野原広子さん、バリトン歌手の笹原一さんの素晴らしい歌声が披露されました。

地元中学生を含む約20名のボランティアが運営に協力し、全員の「大地讃頌」大合唱で、合唱祭が終了しました。来場した約200人の聴衆は、会場に響きわたる歌声に魅了されていました。



げんでんふれあいコンサート 2023 旅する音楽♪

今年は「旅する音楽」と題して、若い世代の音楽教育に力を入れておられるピアノリストの高橋かほるさんを中心に、福井県内で活躍されている内田彩菜美さん（フルート）、南部匡恵さん（クラリネット）、平岡愛子さん（マリンバ）、パーカッション、川崎美砂子さん（ソプラノ）を迎えてのコンサートとしました。クラシック音楽にあまりなじみのない方や小さなお子さんにも演奏を楽しんでいただくという趣向で、生のクラシック音楽の演奏や歌を聴けるとあって、小さなお子さん連れのご家族をはじめ、

優れた芸術鑑賞の機会提供及び県内の音楽家の育成・活動の場の提供の一環として、当財団では、げんでんふれあいコンサート2023を、令和5年10月22日（日）に敦賀市民文化センターで、12月2日（土）に鯖江市文化センターで開催しました。

県内各地から両会場で合わせて600人を超える観客が詰めかけました。楽しいトークを交え、クラシック音楽や日本の懐かしい音楽などの曲目が演奏されるたびに会場は盛大な拍手で沸き立ち、観客は爽やかなひと時をゆっくと楽しんでいました。



●演奏曲目

第1部『ここはどこ？日本じゃない』

- トルコ行進曲（モーツァルト）
- 葦笛の踊り（チャイコフスキー）
- ウィーン我が夢の街（ジーツィンスキー）
- パート・オブ・ユア・ワールド（メンケン） ほか

第2部『遊びに来たよ、夢の場所へ』

- エレクトリカル・パレード（ペリー&キングスレイ）
- 道化師のギャロップ（カバレフスキー）
- ダットン人の踊り（ポロディン）
- リベルタンゴ（ピアソラ） ほか

第17回げんでんふるさと大賞2023写真コンテスト入賞作品展



当財団では、第17回げんでんふるさと大賞2023写真コンテストの入賞作品展を、令和5年11月12日から19日までげんでんふれあいギャラリー（敦賀市本町2丁目）で、12月6日から12日まで福井新聞社・風の森ギャラリー（福井市大和田2丁目）で開催しました。

会場には、応募作品290点の中から選ばれた、ふるさと大賞1点、ふるさと賞3点、優秀賞5点、協賛社賞3点をはじめ、42点の作品を展示しました。

審査委員長の水谷内健次さんは、「これぞ私のふるさと、という作品が数多く集まった移りゆく街、変わらぬ自然や伝統行事、そこに暮らす人々の営みなどが色鮮やかに映し出された。今後も、ふるさとに目を向けた、心あたたまる作品が生まれることを期待する」と総評されました。

両会場とも、多くの人が訪れ、人物、自然、風景、伝統行事などが、心豊かに表現された「四季折々シン・ふくい」に見入っていました。



財団 ふれあい 通信

令和6年度の助成事業を募集しています

当財団では、令和6年度において、地域文化及び科学技術の振興並びに青少年の人材育成、ふれあい及びゆとりの創造を目的に行われる文化活動等を行うための助成を受けたい団体を募集しています。

対象となる事業

- ① 市民文化団体、各種団体(サークル)の活動
- ② 海外との芸術文化の交流、国際文化交流団体の活動
- ③ 地域文化の醸成・継承活動
- ④ ボランティア団体等の活動
- ⑤ 市民芸術文化団体の活動
- ⑥ 福井県出身・在住の新人芸術家の創作、発表活動
- ⑦ 伝統芸能・伝統行事の保存と継承者の育成
- ⑧ 郷土史の研究活動及び文化遺産の伝承
- ⑨ 優れた芸術公演、展示の開催
- ⑩ 環境保全実践団体の活動

対象団体の要件

- 1 福井県内に活動の本拠を置く団体
- 2 構成員(会員)が原則として20名以上の団体
- 3 令和6年4月1日現在で、設立後2年を経過している団体
- 4 営利を目的とせず、明確な会計処理を実施・報告できる団体

助成の対象となる事業内容、経費等

- 応募要領の別表に定める推薦団体が、当財団の助成事業として推薦する事業であること。
- 原則として、助成団体自らが主催又は共催する事業であること。
- 令和6年4月から令和7年3月までの間に実施する事業であること。
- 助成は、原則として、同一団体の同一事業に対して過去10年間で3回を限度とします。但し、「無形民俗文化財に指定されている伝統芸能・伝統行事の保存と後継者の育成に関する事業」及び「ボランティア等の活動に関する事業(チャリティー事業は除く)」については、当面の間、申請回数は制限しません。
- 北陸新幹線敦賀延伸開業に伴う地域活性化や誘客増大のための事業については、応募要領の別表に記載している「助成金の額及び限度額」を、必要経費は1/2以内、限度額は記載額に1.5を乗じた金額とします。(この特例の適用期間は令和8年度までに限ります。)

【改定のポイント必見】
下線部がこれまでの
変更点です!!

応募方法

- 助成事業応募要領に定める推薦団体の推薦を受けたくて、助成事業申請書等を提出して下さい。
受付期間：令和5年12月15日(金)～令和6年2月15日(木)
- 助成事業申請書のほか、事業計画、予算書などの提出が必要です。詳しくは、当財団ホームページ(<https://www.genden.or.jp>)をご覧ください。か、げんでんふれあい福井財団(☎0770-21-0291)にお問い合わせ下さい。



↑詳しくは
コチラ